

5 「ホワイトコートTM」を用いたカラーシミュレーションによるホワイトニング治療への誘導効果について

○木暮 ミカ

(歯科技工士学科)

【目的】近年、国内外で歯を白くする審美歯科治療に関心が高まっており、ホワイトニング治療を積極的に勧める歯科医師は増加傾向にある。しかし、シェードガイドによる視感比色法やCGによる色調シミュレーションでは第三者評価および環境光の変化に伴う見えの変化までは予想がつかず、診療室において一時的にホワイトニングに対するモチベーションを高めるとともに成功したとしても、実際の治療をためらう患者も少なくない。そこで新規審美修復材「ホワイトコートTM (クラレメディカル)」を用いてホワイトニング後の色調を疑似体験することがどの程度ホワイトニング治療への誘導に効果があるか調査したので報告する。

【方法】1. 被験者：本学学生 8 名 (19~24 歳)。2. 評価方法①観測面照度 800Lx (Ra98 蛍光灯使用) で JIS Z 8723 に準拠する観察条件下において、ベースコート各色

を塗布したシェードタブを被験者に呈示し、比較法による色彩嗜好を測定した。②被験者の上顎前歯 6 本に任意の色を塗布し、2 週間日常生活を送ってもらった後、SD 法による色彩イメージの測定を行い、実験終了後に本実験の感想とホワイトニングについてアンケート形式の調査を行った。

【結果と考察】色彩嗜好相関図と、SD 評価から得られた Image profile と主因子法 varimax 回転により抽出した「主観的満足度」と「客観的満足度」の 2 因子を分析した結果、「理想に近い歯冠色になれた」という主観的な満足感はホワイトニング治療に対するモチベーションに大きく影響することが判った。またアンケート結果と被験者の 9 割がホワイトニング治療を希望してきた事より本法の有効性が確認された。

6 オフィスホワイトニングとホームホワイトニングの臨床例

○市川 伸彦, 金子 潤, 野村 章子, 小出 公子, 笠原 由紀

(附属歯科診療所)

【はじめに】近年、わが国では審美歯科への関心が急速に高まり、歯のホワイトニングを希望して来院する患者が増加傾向にある。当診療所では 2000 年から歯科漂白治療を積極的に導入しており、基礎的・臨床的研究発表も行なってきた。また専門医だけでなく、常勤するすべての歯科医師が基本的知識、技術を習得して臨床で施術できるよう医局会などで研修プログラムを実施してきた。今回、歯の色調改善を主訴として来院した患者のうち、実際にホワイトニングを担当、施術した 4 症例について報告した。

【症例】①24 歳女性。オフィスホワイトニング (Hi LiteTM: 松風) を 4 回行った。色彩変化は A3 から 020, $\Delta\text{sgu} = 11$ であった。術中は一時的な痛みを認めた。②73 歳女性。オフィスホワイトニング (Hi LiteTM) を 3 回行った。色彩変化は C4 から C3, $\Delta\text{sgu} = 2$ であった。術中の不快事項は特に認められなかった。③23 歳女性。ホームホワイトニング (Nite WhiteTM Excel 3Z:

Discus Dental) を 14 週間行った。色彩変化は A2 から 020, $\Delta\text{sgu} = 7$ であった。術中の不快事項は特に認められなかった。④23 歳女性。ホームホワイトニング (Nite WhiteTM Excel 3Z) を 18 週間行った。色彩変化は B2 から 020, $\Delta\text{sgu} = 5$ であった。術中の不快事項は特に認められなかった。

【考察】すべての症例でシェードが術前よりも上昇したが、変化量 Δsgu には差があった。特に症例②は患者が高齢であり、エナメル質の石灰化が亢進しているため色彩変化が少なかったと思われる。他の 3 症例では Δsgu が 5~11 と大きく明度が上昇し、術後シェードも 020 となり、患者の治療への満足度も高かった。今後は色彩変化とともに、より自然感のある白さへの要求が強くなると考えられ、漂白剤濃度、作用時間、分解促進手段を含む作用形態等について詳細に検討し、当診療所のホワイトニングプログラムを充実させたい。